
疲れた夫を癒すために
企画した温泉旅行
温泉好きのお義父さんも
加わって三人で行くことに……
……まさか……
こんなことに……


混浴
義父温泉
夫の横で義父チ○ポを咥えこむ妻のマ○コ
イかされまくりで中出しされて孕まされる
もう……
戻れない……

「瑛太」と「美里」は仲睦まじい夫婦として近所でも評判だ

そんな二人の未来は安泰に見えたが……




何とか疲れを癒してあげたい…
……そうだわ
ねぇ 瑛太さん 久しぶりに温泉に行かない？
…温泉かいいねっ
ふふっ 瑛太さんは本当に温泉が好きよね
ああっ 特に露天風呂は最高だよ ぜひ露天のある宿に行こう
あの宿の露天…確か混浴だったわよね
ほら 俺の気に入ってる宿があったろ？ あそこに行こう
ああ そうだよ あそこの露天いいんだよなぁ
それに疲れを癒すならやっぱり美里と一緒に入らないと
もう あなたったら


あの宿は嫌？
嫌というか…
やっぱり少し恥ずかしくて
ははは 大丈夫
あの露天は
普段は誰も来ないし
誰かに見られるような
事はないよ
確かに今まで誰かに
会ったことはないけど…
だろ？
なら決まりだな
ふふっ そうね
分かったわ
あの宿にしましょう
よーし！
じゃあ休みが取れるよう
仕事頑張ってくるな
はぁい
行ってらっしゃい あなた
そうだわ
家を空ける事 お義父さんに
伝えておかないと


ほう……
瑛太と温泉に？
はい 最近瑛太さん
疲れ気味だから
温泉で癒されて
貰おうと思って
なるほどなぁ
それはいい提案だな
よし！
私も行こう
私も温泉が大好きなんだよ
いや むしろ瑛太の温泉好きは
私の血とも言える
そうだったんですか
お義父さんと
三人で温泉…
瑛太さんと二人で行きたかったけど
お義父さんも温泉が好きなら
一緒に行った方がいいわよね
それに露天以外は
男女別だし…
うん 何も問題
ないじゃない
ふふっ
それじゃあお義父さんも
一緒に三人で行きましょうか
ああ よろしく頼む


わぁっ きれいなお部屋


ふぅ
やっと着いたな
いやぁ 疲れた
私は部屋で少し
休ませて貰うよ
お義父さん
運転有難うございました
疲れの溜まっている
瑛太さんを気遣って
お義父さんが殆ど
運転してくれた
おかげで瑛太さんも
少し元気が出てきたみたい
よーし じゃあ俺達は早速
温泉に入ろうぜ


これこれっ
ここからの眺めが最高なんだよなぁ
誰か来たりしないかしら…
大丈夫だってそんな事よりこの景色を見ろよ
確かに…すごく綺麗…
だろ？
そっか心配かけたな
でももう心配いらないぞほら
ふふっあなたが元気になってくれて良かった
俺 そんなに元気なかった？
すっごく疲れた顔してた
あ あなたったら
すごく大きくなってる…
ギン ギン


可愛いなぁ 美里は
タオルごしでも
素晴らしいスタイル
なのがわかるよ
うんっ もう
あなたったら……
ちゅぷ〜ん
ちゅぷ〜ん
誰もいないから
タオル取っちゃおうよ
美里のおっぱいは
相変わらず大きくて
最高だな
あんっ
たぷ〜ん


いやっ　あんまり
じろじろ見ないで
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
美里…
このまましよっか
あっ あふぅんっ
ここで？…あふぁっ
そう
俺のお気に入りの
この場所で…
誰も来ないって
それに美里も気持ちいいだろ？
さっきから腰がうねってるぞ
美里愛してる…
だってぇ
瑛太さんの硬いのが…
当たって…あんっ
んっ
瑛太さん
…私も…
んくぅ…で でもぉっ
や…やっぱり…あんっ
ここでなんて…ダメよっ
ギン ギン


んあああっ
あなた…っ
んっ そんなに強く
触られたらっ あぁっ
だってぇ…
あなたにしてもらうの
久しぶりで…あっ
はは 肩が震えてる
そんなにイイ?
俺の手で美里のおっぱいが
グニグニ変形してるよ
あっんっ
気持ちいい
あぅぅっ
おっぱい揉まれるだけで
体 ビクビクってしちゃう


美里の凄く気持ちよさそうな顔見てたら俺も…
こうして擦りつけてるだけでヌルヌルの愛液がとめどなく溢れてくるよ
……っ
瑛太さんの硬いのがぁ…っ私の…っアソコに当たってるぅ
あぁぁっ恥ずかしい所がヌルヌルで…っ硬いので擦られるのいいっ
あぁっんふぅっあなたので擦られてんっアソコが期待しちゃってるのぉ
気持ち…いいっ気持ちいいのぉ…っ
ねぇあなたお願ぁいもう挿れてぇ


こんな所で挿れていいのかっ
さっきまであんなに
誰か来ないか気にしていたのに
いいっ いいのっ
私…もう我慢出来ないっ
俺もだっ


おぉ 良さそうな
温泉だなぁ
きゃっ
お お義父さん
急に入ってくるなんて…
あせ
あせっ
……ったく
どういうつもりだよ
いやー
すまんすまん
うぅ…お義父さんも
露天に来るだなんて
それもあんな事を
しようとしてた時に…っ
見られちゃったかしら……
大丈夫
親父は眼鏡かけないと
よく見えないから
美里の裸は見られてないよ
しゅ〜ん。

いやぁ いい温泉だ
湯も柔らかいなぁ
ふぅぅぅっ

お義父さん 全然気にしてないみたい
やっぱり見えてないのかしら…

それなら…こうして
一緒にいても大丈夫…よね

そうだ！親父
マッサージ
上手かったよな

色んなマッサージ店に通ってるからな
そこらの新人マッサージ師よりかは
腕に自信あるぞ

久しぶりに頼むよ
俺 肩がバッキバキでさぁ

仕方のないやつだなぁ
よし ここに座れ

よろしく

……っと
どうだ？

あぁぁぁぁぁ
最っ高……

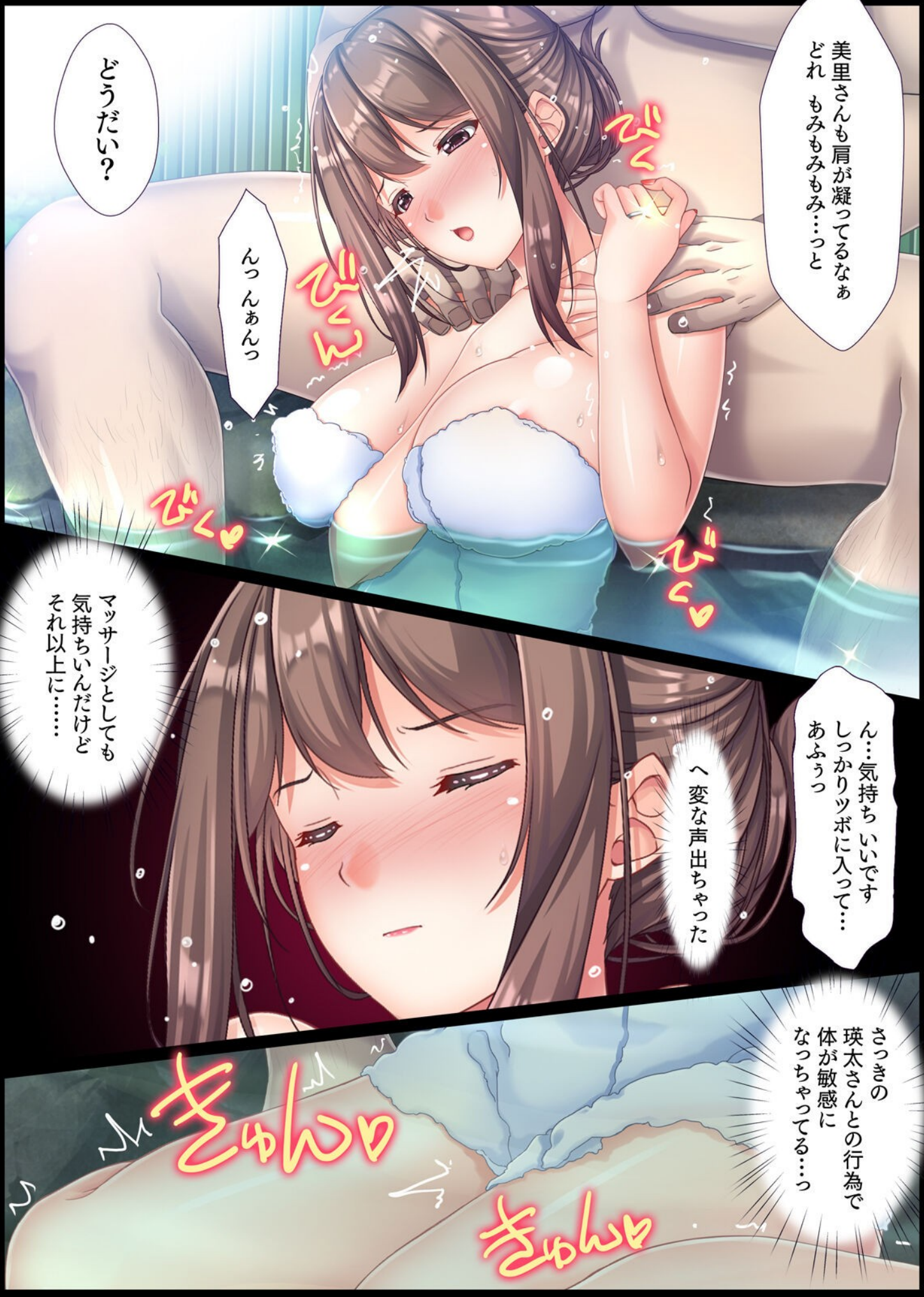
だろう？

急にお義父さんが入ってきて
どうなるかと思ったけど…

瑛太さんリラックスしてる…
瑛太さんに元気になって貰う為に
来たんだもの…良かった…


ふぅっ
なんか少し
のぼせてきたな
俺はこの辺で
上がるな
美里はゆっくり
していいからな
ザバーーッ
え？
あ あなた…っ
どうしよう
お義父さんと二人きり
でもすぐに出ていくのも
感じが悪いわよね


美里さん
美里さんにもマッサージしてやろうか？
あんたも毎日家事や何やで大変だろうさ 遠慮せずに
え？ いえそんな悪いですっ
いいからいいから な？
えっ あのっ本当に悪いですから…っ
どうしようあんまり拒否するのもよくないわよね
お義父さんは善意で申し出て下さってるんだし…
それじゃあ…少しだけ…
よーしじゃあしっかり揉みほぐしてあげよう
はい はい


美里さんも肩が凝ってるなぁ
どれ　もみもみもみ…っと
どうだい？
んっんぁんっ
びくん
びくん
びくん
ん…気持ちいいです
しっかりツボに入って…
あふぅっ
へ変な声出ちゃった
マッサージとしても
気持ちいんだけど
それ以上に……
さっきの
瑛太さんとの行為で
体が敏感に
なっちゃってる…っ
きゅんっ
きゅんっ


ここを押すと
凝りに効くんだよ
グニッ
あっあふっ
あぁん…っ
声…出ちゃ…っ
どうしたんだい…？
痛かったかな？
いいえ…
そんな事ないです…
大丈夫です…
あ…あっ
どうしよう…
変な感じに
なっちゃうぅっ
もみもみ
もみ
そうかい？
それじゃあ続きを…
鎖骨の下も
凝ってるねぇ
なでっ


ひゃふんっ
そこ はっ
胸に近くて…
感じちゃうぅ…
ほら ここの
リンパのところ…
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
ふぁぁっ
んっ んふぁっ
ひっ 体が
あぁぁんっ
はぁっ
はぁっ
ダメ ダメ 声抑えられないっ
これ以上されたら…私…っ
美里さん
随分と肌が
紅潮してきたね

……っ！
わっ 私ものぼせ
ちゃったみたいですっ

もう上がりますねっ

あせっあせっ

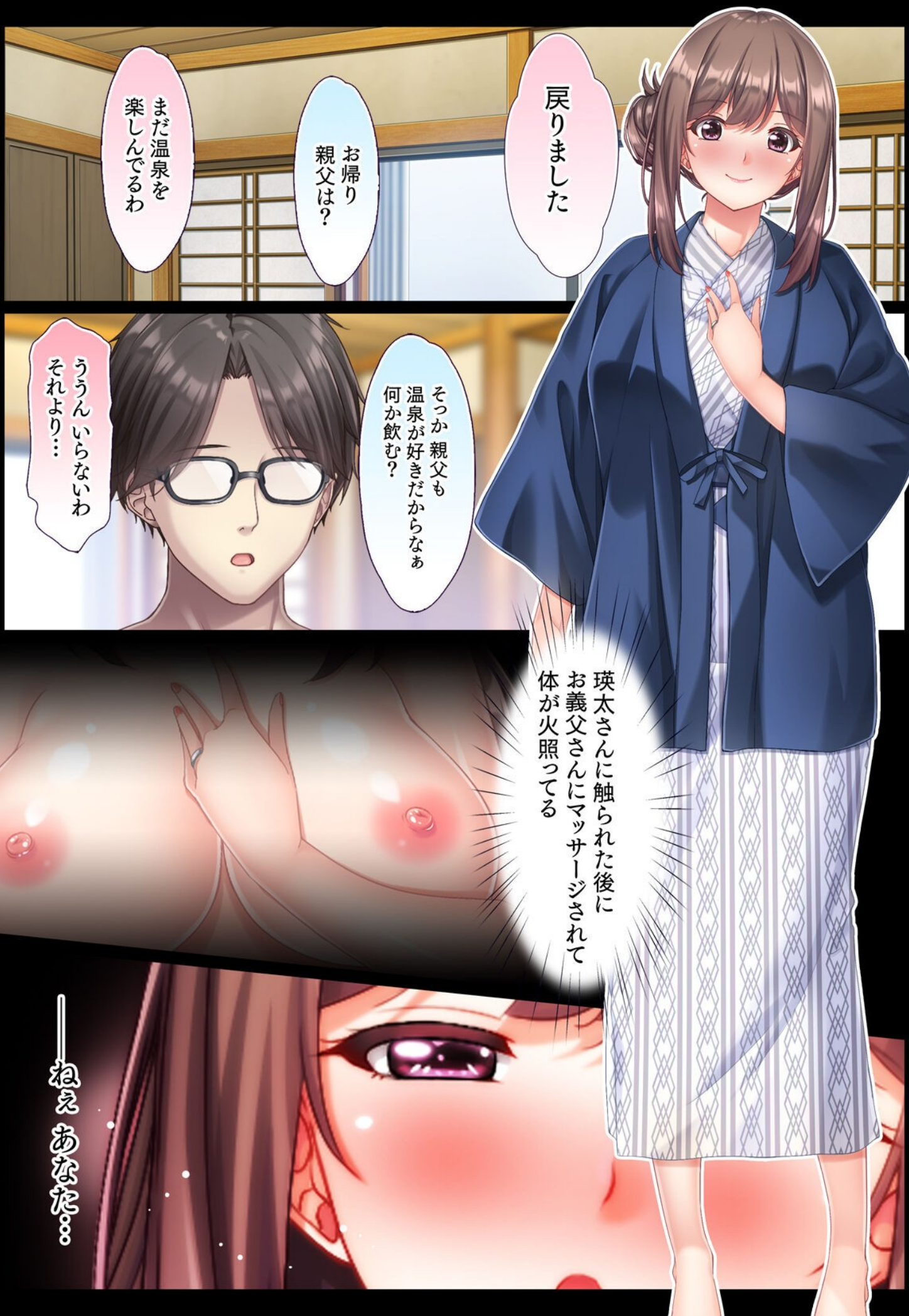
おや そうかい

お先に
失礼しますっ

あ 危なかった…
あのままされてたら私…

お義父さんの指で
感じちゃってた

……


戻りました
お帰り
親父は？
まだ温泉を
楽しんでるわ
そっか 親父も
温泉が好きだからなぁ
何か飲む？
ううん いらないわ
それより…
瑛太さんに触られた後に
お義父さんにマッサージされて
体が火照ってる
――ねえ あなた…

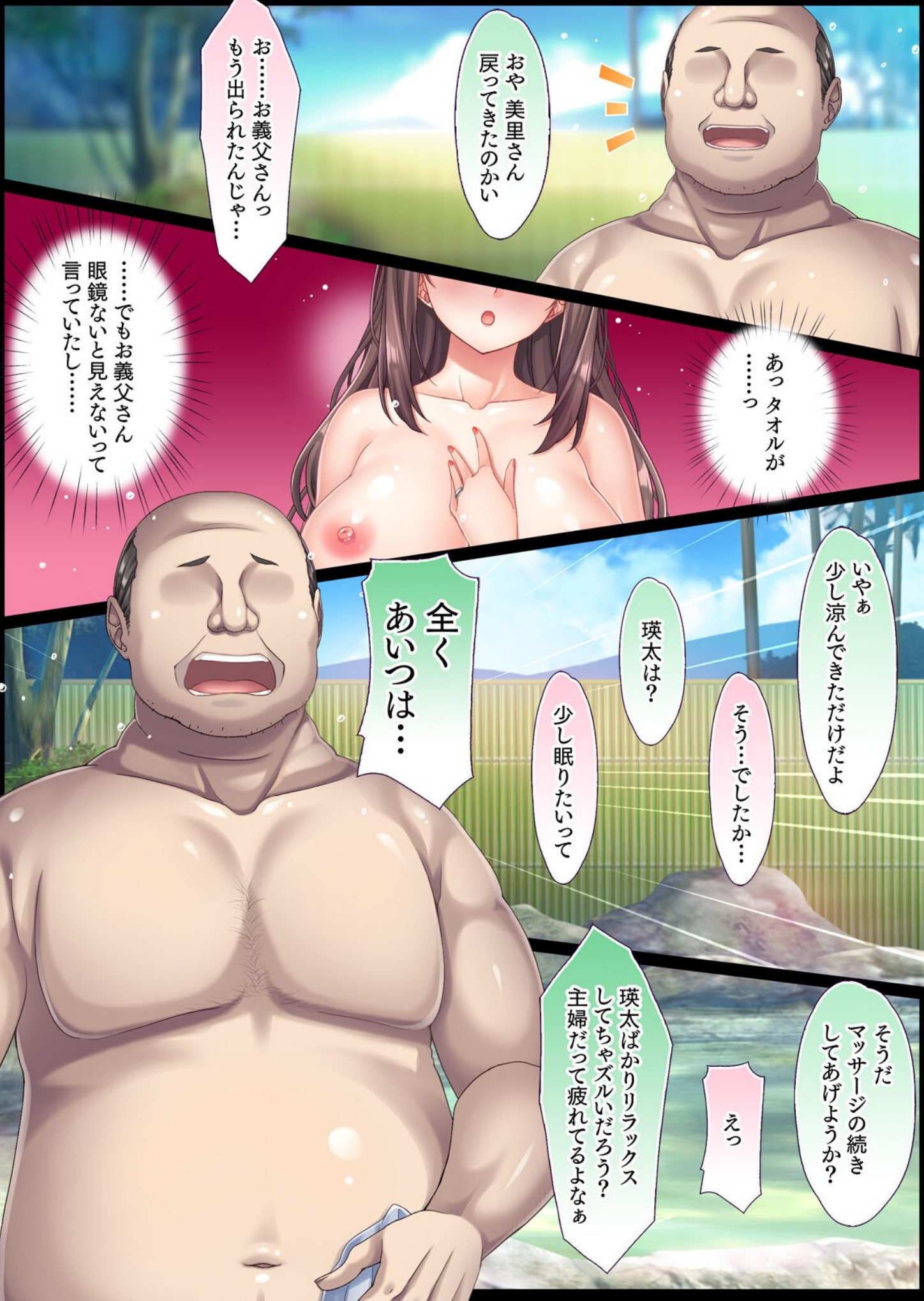

ふぁ～
風呂から出たら
眠くなってきた
ごめん
軽く寝るな
え…えぇ

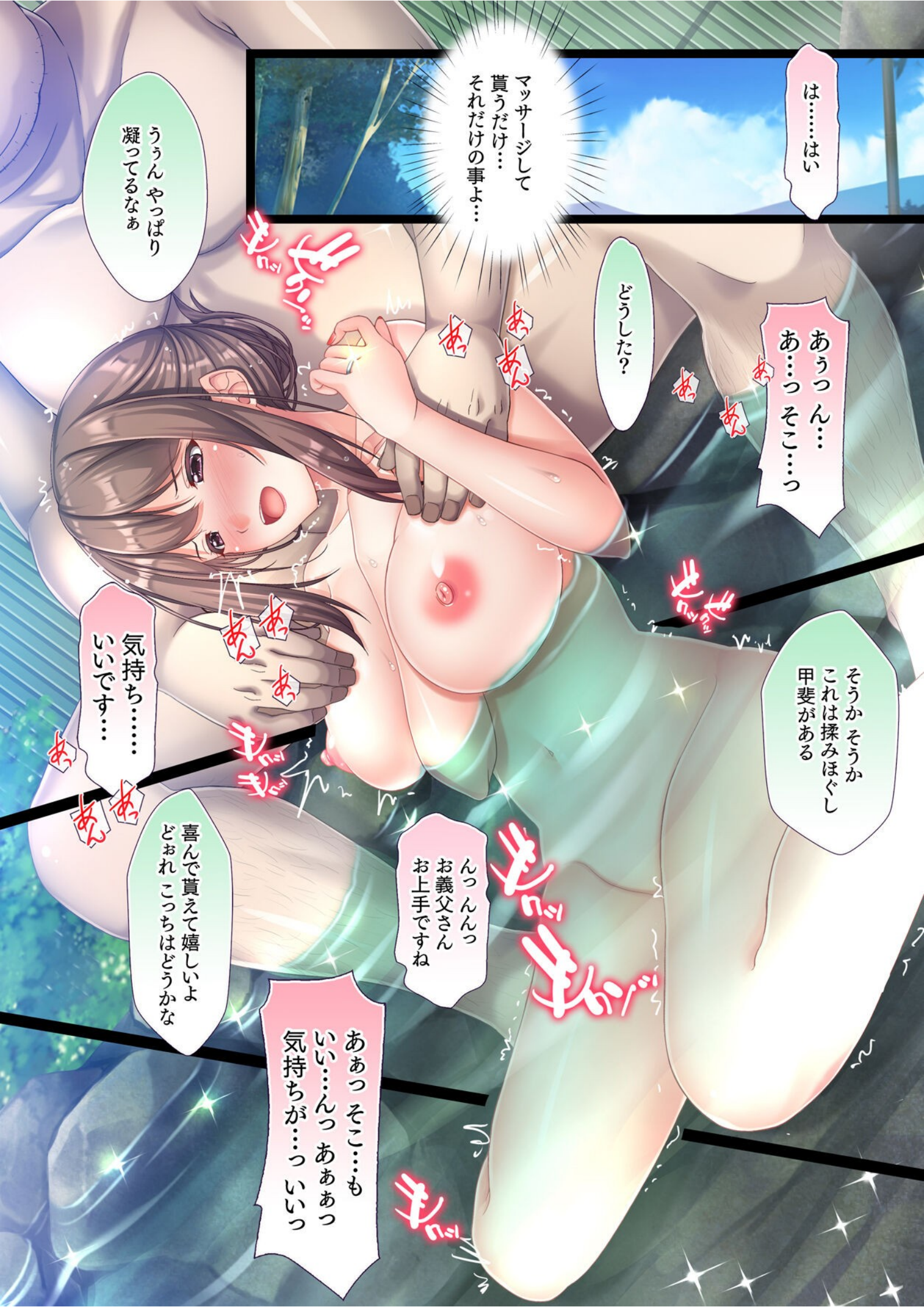

仕方ないわ…
疲れてるんだもの
瑛太さん
寝ちゃったし……
もう一度 洗い流しに
行こうかな


お義父さんは
まだ露天に
いるかしら…
もしいたら…
……っ
私…何考えて
るんだろう…


誰もいない…


ふふっ
貸し切りね
お義父さんも
いないみたいだし…
タオル取っちゃお
……はぁぁぁ
何だか変な気分に
なってきちゃってたし
少しここで
落ち着いていこう


おや 美里さん
戻ってきたのかい
お……お義父さんっ
もう出られたんじゃ…
あっ タオルが
……っ
……でもお義父さん
眼鏡ないと見えないって
言っていたし……
いやぁ
少し涼んできただけだよ
瑛太は？
そう…でしたか…
少し眠りたいって
全く
あいつは…
そうだ
マッサージの続き
してあげようか？
えっ
瑛太ばかりリラックス
してちゃズルいだろう？
主婦だって疲れてるよなぁ


は……はい
マッサージして貰うだけ…それだけの事よ…
どうした？
あうっ ん…あ…っ そこ…っ
うぅん やっぱり凝ってるなぁ
そうか そうか これは揉みほぐし甲斐がある
気持ち…… いいです…
んっ んんっ お義父さん お上手ですね
喜んで貰えて嬉しいよ どぉれ こっちはどうかな
あぁっ そこ…も いい…んっ あぁあっ 気持ちが…っ いいっ
あっ
あん


…もっと
気持ちよくなる
マッサージも
あるんだがなぁ
もっと…？
そう もっと気持ちよく
なりたくないかい？
なりたい…です…
もむっ
もむっ
もむっ
もむっ
もむっ
もむっ
ははは 美里さんは
素直だなぁ
どうれ
もみっ
もみっ
もみっ


あっ そ…
そんなとこ…っ
美里さんのおっぱいは
大きいねぇ
これだけおっぱいが大きいと
肩が凝るだろう
念入りに揉んでやらんと
やめ…ダメですっ
こんな…あぁっ
あん
あっ
あっ あぁんっ
胸…がっ あふぅっ
あ…あぁ…
そん…な風に…っ
触られたら…っ あぅうっ


大きいだけ
じゃなく柔らかい
ほうら おっぱいをこうして
マッサージしてると
どんどん形が変わっていくぞ
くにくに
そ…それはぁっ
体がどんどん感じ
ちゃってるぅぅ…っ
んふぁっ あんっ
それ以上…っ
揉んじゃ…だめぇ…っ
キュウ
でも乳首は硬く
なってるじゃないか
感じてしまったのかい？
だめだめぇっ
相手は瑛太さんの
お義父さんなのよっ


美里さん 我慢せずに
もっと声を出していいんだぞ
誰も来ないんだから
そ…そんな事…っ
ほらっ
んあふぁあっ
もぐっ
もぐっ
キュッ
キュッ
そうそう
乳首をきゅうっとされると
たまらなくなるだろう?
あぁぁっ んっ んふぅうっ
先っぽ……ダメ……
も……もう……
よぉしよし
もっと乳首のマッサージを
してあげようね
きゃふぅうんっ
あぁっんっ ダメッ
ダメ ダメ ダメッ
キュッ
キュッ
キュッ
気持ち…
いい…っ


いい反応をするじゃないか
どれ こっちの方はどうかな？
ダ…ダメッ そっちは…っ
は…恥ずかしいっ お義父さん もう許してぇ…
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ
おおっ お湯の中でもわかるぞ こっちも大洪水じゃないか 指があっという間にヌルヌルだ
乳首だけじゃなくてクリも硬く勃起してるじゃあないか
あ…あぅうっ そ そこ擦られると…私…っ
それは擦ってくれという事かな？ どぉれ
アソコが…痺れちゃ…っ あっ あっ あふぅうっ


クリは上下に
擦られるのが好きかな？
それとも軽く
叩かれる方が好みか？
あっ あぁぁぁ
ど どっちも…あぁぁ……
どっちも好き…ですぅ…っ
いやらしいなぁ
美里さんは
いやらしい嫁で んくぅっ
ごめんなさいぃ……っ
あふぁぁっ
もうダメぇ…
気持ちよくって…あぁぁっ
理性がぁ 飛んでっちゃうぅうっ
ほぉら
おっぱいの硬い所も
こっちの硬い所も
両方同時に
シコってあげるから
あぁぁぁっ 指ぃ 凄いの…っ
上も下も同時に責められて
私…っ あぁっ
いっぱい感じちゃうっ
あ
あん
クリッ
クチョ


首筋が紅潮してるぞ
気持ちいいんだね 美里さん
はい…っ
気持ち いい…っ
たまらないんです…
あふぅっ
マッサージは私の得意技だからね
このまま任せなさい
はぁはっ
ふぁいっ 気持ちいい…
気持ちいいですぅ…っ
ゼクッゼクッ
琰太さんのお義父さんの指で
こんなに感じて…
琰太さんに中途半端に
触られた体が…やっと
やっと満たされそう…っ
ダメなのに…
こんな事…ダメなのに…
じゅぶ


こんな風に
おっぱいもアソコも
こねくり回されて…
私 私もう
あぁっ お義父さんの
指使い凄い…
イク…イク…イっちゃうっ
お義父さんの指で…私…っ


イッ
イッ
イッ


ごちそうさまでした
美味かったなぁ
美里のご飯は最高だけど
たまにはこういうのもいいな
ふふっ 後片付けも
しなくていいしね
いやぁ
飯も酒も最高だな
瑛太 もっと飲むか？
そうだなぁ
せっかくだし飲もうかな
よしよし 注いでやろう
トクトクトク
おっととと…
ぷはぁっ 最高っ
ぷはぁっ
ふふっ 瑛太さんったら
ご機嫌ね♪
その後も瑛太は酒を楽しみ
やがて深い眠りについた


瑛太さん グッスリ眠ってる
本当は二人で
もっと楽しみ
たかったけど…
幸せそうな寝顔…
瑛太さんの疲れが癒えて
この穏やかな寝顔が
見られたんだもの
これで十分幸せよね
来て良かったわ
瑛太のやつ 美里さんを
放ったらかしにして
いいんです お義父さん
瑛太さんの疲れが癒えたなら
それで…
しかしそれじゃあ
美里さんが可哀想だろう
どれ…
きゃっ


何をなさるんですか
お義父さんっ
瑛太の代わりに
私が美里さんを癒して
あげようと思ってな
ダメ ダメですっ
こんな事…っ
そんな風に言いながら
抵抗する手に そこまで
力が入っとらんぞ
だって…
さっきのお義父さんの
指を体が覚えてて…勝手に
体が反応しちゃうっ
ほうら
体は正直じゃないか


だめっ だめですっ んんぅっ
瑛太さんが目の前にいるんですよっ
んふぁぁっ あはっぁ
こいつが酔うと滅多な事では
起きない事は美里さんも
知っているだろう
確かに…んっ
瑛太さんは簡単には
起きたりしないだろうけど…
だけどこんな事…っ
眠ってるとはいえ瑛太さんの
目の前でお義父さんとなんて
こんな事って
さっきはあんなに
素直だったじゃないか
もみっ
もみっ
だめ…やっぱり
いけない事です…
なぁにマッサージだよ
マッサージ
ほぉら
気持ちいいだろう
あ…あぁっ
あふぅぅっ
ダメェ…っ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ


ん…
あ…あぁぁっ
んこんな…あぁぁっ
ダメぇ…
おっぱい感じちゃうっ
瑛太さんの前なのに…
でも…あぁぁっ
ダメ…なのにぃっ
感じちゃうのっ あぁぁっ
気持ち…いぃ…っ
美里さん
綺麗な乳首の色だねぇ
あぁっ
浴衣 はだけちゃってるぅ
いやぁ…見ないで下さい
こんな綺麗なもの
隠す方が無粋と
思わんか？
ほら 私の手の中で
美里さんのおっぱいが
跳ねて喜んでる


んっ んっ 指が…
胸に沈んで…あぁっ
お義父さんの指…
感じちゃうぅぅ
ごらん
乳首をキュゥっと
摘まんで離すと
先っぽ そんなに
弄っちゃいやぁっ
おっぱいがブルンブルンに揺れる
このおっぱいは最高だね
あぁっ
あ あぁぁっ
ダメ もう…私…
あ
あん
キュッ
モニュ


お昼にも……
お義父さんに
イかされたのに……
はぁはっ
はぁはっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁはっ
はぁっ
はぁっ
また……
またイっちゃう
おっぱいだけで
イっちゃうぅぅっ
んんんん
もぐもぐ


おやおや 美里さん…
イっちゃったのかな
うぅ〜ん
可愛いねぇ 美里さん
は…恥ずかしい…
こんな…あぁ…っ
乳首だけで
イっちゃうなんてぇ…
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
ひくひくっ
ひくひくっ
でも まだだよ……
私のマッサージは
こんなものじゃないよ
……えっ
くいっ
きゃっ
ぱおっ!!


おぉ
いい眺めだ
ここんな
恥ずかしい格好…っ
やめて下さい…っ
許してぇ…っ
そんな事を言っても
ここをこうして撫でられると
あふぁぁうっ
真ん中ぁ 擦らないでぇ…っ
あぁっ♪
スリスリ
ほぅら 気持ちよさそうな声を
上げるじゃないか


美里さんのマ〇コは肉付きがいいねぇ
こうしてるとマン筋がくっきり分かるよ
お義父さんに見られて興奮しちゃってる…っ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
うぅ…っ声…抑えたいのにぃなんで我慢出来ないのぉっ
ふくっ
しゃわわ…っ
おや 口とは裏腹にマン筋におツユが浮かんできたぞ？
あぁぁ…見ちゃ…ダメ…んっ あぁぁっ
ひぅっ そんな…わ…私…っ


どうれ
風呂からあがったばかりなのに
パンツにシミがついたら嫌だろう？
きゃあっ
や…やめて下さい…
こんな…こんなの…っ
美里さんは乳首だけじゃなくて
マ〇コもピンクで綺麗な色だねぇ
するんっ
じっくり見ないでぇ…っ
ふふ そうだ
見てるだけじゃいかんな
……どれ
きゃふぅっ
あぁっ お義父さんの指ぃ
私の膣内に挿入って…っ
おお
ヌルヌルのマ〇コが
私の指を簡単に
飲み込んでくじゃないか
あっ あぁぁっ
膣内ぁ そんな風に
弄っちゃ…あぅぅっ
にゅぷぷぷ


美里さんは
奥とクリトリス
どっちが好きかな？
やっぱり
クリトリスか？
よぉしよし
クリトリスが大好きか
たくさん擦ってやろう
んっはぁ
ああっ
そこ 弱いの
弱いんですっ
だから…っ
くにくにくにくに
ああああっ
そこ…グリグリされると…
あぁあんっ いいっ
あっ あっ
感じちゃうっ
感じちゃうのぉおっ

おお 美里さんのマ〇コが
気持ちいいって
私の指に絡みついてくる

あふっ んっ
だってソコ…あぁぁっ
気持ちよすぎてぇっ

マ〇コ汁も止めどなく溢れて
私の指がふやけそうだ

このままマン汁が出続けたら
美里さんのマン汁温泉が
浴びれそうだな

ふぁぁうぅぅ…っ
あ あんまり意地悪な事
言わないでぇ…っ

どれ 美里さん
もっと素直に感じなさい
こうやって膣内を掻き回されると
マ〇コが喜ぶだろう?

んっ んんっ
素直に…なんて…
なれません…んふぁぁっ

こんな状況で無理よぉ…っ
瑛太さんが…
瑛太さんがいるのにっ


…それじゃあここでやめてもいいのかな？
え…？やめ…る…？
このまま大人しく朝まで眠ってしまっても私は別にいいんだぞ？
すっ
そんな…体が反応してるのにこんな状態で放っておかれたら…私…おかしくなりそうっ
どうした？何かして欲しい事があるならちゃんと言わんと分らんぞ
あ…お お願いします…続きを…
ん？なんだ？なんの続きだ？
さっきの…
はぁはっ
はぁっ
はぁっ
はぁはっ
はぁっ
はぁっ
お願い 欲しいの…っお義父さんの指…欲しい…っ
さっき？


で…ですから…っ
このまま朝を
迎えるなんて無理ぃ
うぅ…はっきり言わないと
して貰えないんだわ…
恥ずかしい…けど…
私…私…っ
お義父さんにイかされ
たいのぉっ
お…お義父さんの指…で
わ 私のおま○こ…
ほじって下さい…っ
あなた ごめんなさいっ
ふふふ 可愛い嫁に
そんな風に頼まれたら
断れんよなぁ
どぉれ
美里さんのスケベ穴
望み通り私の指で
グチョグチョにしてやろう


あぁっ 指っ 指凄いっ
私の膣内で 激しく
動いてっ あぁっ
ダメっ ダメっ
あっ ふぁぁうぅん
あっ あっ いい
お義父さんの指 いいっ
あぁぁふぅぅんっ
おま○こ気持ちいぃぃっ
マ○コがパクパクしてきたぞっ
イクなら ちゃんと言いなさい
ふぁいいぃっ
お義父さんの指でぇ
おま○こいっぱい擦られてぇ
美里ぉ
もうイキますっ
イっちゃいますっ
あっ あっ あぁぁっ
はしたない嫁で
ごめんなさいぃっ


ぱふっ
むにゅん
ナンシャアン


おぉっ
こりゃ凄い
美里さんの温泉は
間欠泉だったみたいだな
見事に噴き出してきおったわ
あ…あぁ…あふぅ…っ
はぁっ はぁっ
ここんな…あぁ…っ
私…お義父さんの前で…
潮…噴いちゃった…
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ


さて それじゃあ…
次は私も気持ちよくして
貰おうかな
ギン
そ それは…
ギン
まさか嫌とは
言わんよなぁ？


でも…あの…
無理よっ
お義父さんとなんて


自分はすっかり
気持ちよくなっておいて
私には何もなしか？
潮まであんなに噴いておいて
それではあまりに礼儀に
かけると思わんか？
あ…あの…
じゃあ…口で…
口でご奉仕
させて下さい…


そうかい？
じゃあ頼もうか
は…はい……
口でするだけだから…
あなた…許してね…
むぐっ んっ
んぷぁっ
ぴちゃ
ぴちゃ
ぴちゃ
ぴちゃ
ぴちゃ
ぴちゃ
ぴちゃ
ほらほら咥えるだけ
じゃなくて
しっかり舌も使わんと
大きっ
んぐぅっ
ふぁ ふぁいっ
ぺろっ じゅるっ
じゅちゅうううっ
お義父さんの
瑛太さんのより
大きいっ
それに凄く硬くて…
口の中がいっぱいになっちゃう
Hじゅうううう


どうだ？
私のチ○ポは
しゅごく…大きくて
カリも張ってて
あふっ んっ
舐めてると…
カウパーが溢れてきて
ぴちゃ
ぴちゃ
ぴちゃ
口の中が…
全部…んっ お義父さんの
味になっちゃうぅぅ
随分褒めて
くれるねぇ
私のチ○ポを
気に入ったの
かな？
ん～～～？
あ あふぅ…
だって…しゅごい…っ
こんな立派なおち○ちんが
私の膣内に挿入ってきたら…
ちゅぽ
ぐぷ
ちゅぽ
んぐうっ ぷはぁっ
じゅぽぉぉっ んふうぅっ
想像したら…アソコが
切なくなってきちゃうぅ


お義父さんの…んっ
男の人のにおいが…っ
んっ
んぶっ
おち○ちんの臭いが
濃い… 頭がぼうっと
してきちゃう
んっ
あぶっ
ぷはっ
ああダメっ
我慢出来ない…っ
フェラしてるだけなのに
アソコが疼いちゃってる…っ
ここに…ここに刺激が欲しいのっ
少しだけ自分で…
触ってしまおう…んっ
クチュ
んっ んむむぐっ
舐めてると…口の中…
刺激されて…あぁぁっ
ちゅ
ぢゅるるるっ
ぢゅぱ
ちゃうぅぅ
おち○ちん…んくっ
咥えるの…いい…んっ


とろけてる…
私のアソコ…
おち○ちんしゃぶって
とろけてるぅぅぅっ
美里さんは淫乱だねぇ
私のチ○ポを舐めながら
自分でマ○コまさぐって
んのかい
ごめ…ごめんなさいぃっ
がまん出来なく…って
あっあぁぁっ
ぴちゃ
ぴちゃ
ぴちゃ
ぴちゃ
ずちゅっじゅぽぉぉぉぉっ
んっんっ
くちょ
くちょ
くちょ
んぁぁぁっんふっ
あふぁぁっんっ
きもちいぃっ
おち○ちん舐めながら
おま○こいじるの
気持ちいいっ
そんな事言われたら
もうたまらんなっ


おち○ちん
膨らんで…
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
ふぁいっ
イって イってくだしゃっ
んぷぁぁぁぁあっ
お義父さんの…
ビクンビクンって
震えてる
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
イクッ
出すぞ 美里さんっ
ぐちょ
ぐちょ
ぐちょ
ぐちょ
ぐちょ


んぐ んむ ごくっ
ごくっ ごくっ
しゅっごく濃いい…
ほうら
まだ出るぞ
んぐっ ぐっ
もこれ以上 飲めな…っ
ゴホッ
ごほっ けほっ
こほっ
大丈夫か？
美里さん
はあはっ
はあっ
はあっ
はあっ
大丈夫…です…
濃いのがこんなに
たくさん…
口の中がドロドロだわ…
こんなねばねばなの…
子宮にしっかり
張り付きそう…
っ凄い…お義父さんの
…まだ大きい
美里さん
これが欲しいだろう？
ビン
ビン
えっ……
そんな…こと…


私のチ○ポ舐めながら
マ○コほじっとったくらいだ
これが欲しくないわけがない
そんなに物欲しそうな目で
チ○ポばかり見て……
私が望みを叶えてやろう
あ…あぁ…
欲しい…欲しい…っ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
あふぅ…ダメ…なのに…
お義父さんとこんなの…
ダメなはずなのに…っ
おま○こドロドロに
なっちゃって……
くちょ
くちょ
よーしよし 私のチ○ポで
美里さんのスケベ穴を
埋めてやろう なっ
はい…
あぁっ 瑛太さんが目の前で
寝てるのに…っ お義父さんの
おち○ちんに抗えないっ


んっはぁぁぁぁぁぁぁっ
挿入ってくる…っ
挿入ってくるうううう
ぬのぷぷぷ


あぁぁっ
瑛太さんの
目の前で…
瑛太さんの
お父さんの
硬くて大きな
おち○ちん
おま○こに
受け入れ
ちゃってるぅ
ぬこぬこ
ぬこぬこ
ほうら
奥までズッポシだ
奥まで届い
ちゃってるぅ…っ
あっ あぁんっ
凄い…凄いの…っ
こんな奥まで…あぁっ
瑛太さんの
より長くてっ
ぜクッ
ぜクッ
ぜクッ
ぜクッ
ぜクッ
ぜクッ
んっ
んっ
んっ
んっ
んっ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ


美里さんのマ○コが蠢きながらチ○ポに吸い付いて来とるぞ
キュン
膣内が勝手にお○○ちんにしがみついちゃう
おち○ちん良くて…あぁっ
キュン
どうれいっぱい擦ってやるからな
ジュポン
ジュポン
んはっ あぁぁぁうっ激しくピストンされておま○こ汁ドプドプ溢れちゃうのぉっ
おお マン汁が泡立ってるぞ
あぁっ 気持ちよくて本気汁が…止まらないっ止まらないんですぅぅっ


よぉしよし
メス穴ガンガン
掘ってやるからな
きゃふぅぅんっ
あっ あぁぁっ いいっ
んっ いいのっ
よぉし
ハメまくってあげよう
ハメてぇっ
いっぱいハメハメしてぇっ
うーん…美里ぉ…
むにゃむにゃ…
ひゃいいいっ
んほぉおっ ん あぁあっ
しゅごいっ しゅごいのぉっ
ひっ

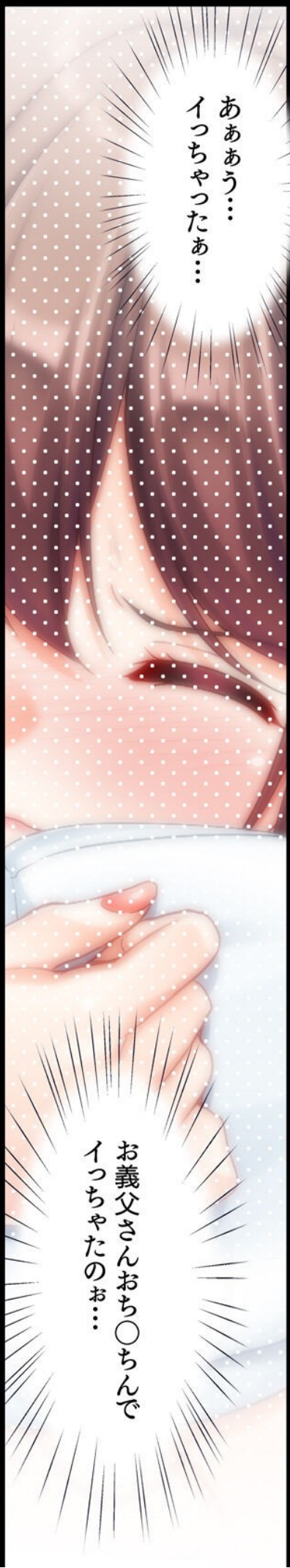

…大丈夫
起きはせんよ
でも…
お義父さん
激しくしないで…
気にせんでいいのに
ほらっ
あぁぁ…んっ
んぐぅう
声…声を
抑えないと…っ
こんな極上マ〇コを前にして
激しくやらない手があるかっ
はちゃん
はちゃん
はちゃん
あぁあっ
んぐっ んんぅう
お願い…
あなた
起きないで


すぴーっ
すぴーーーっ
ほら起きないだろう
どぉれっ 美里さんの
一番好きなGスポットだぞ
くりんっ
きゃふうううんっ
んんぐうううっ
喘ぎたくないっ のにぃっ
あっあっあっ
おち〇ちんの先が
Gスポットにグリグリっ
当てられて 何度も擦られて
あぁぁっ ん あふぁぁっ
ぎゅうっ
おま〇こ汁とお義父さんの
いやらしいカウパーが
膣内で混ざり合って…んっ
ヌルヌルのおち〇ちんで
突かれまくるのいいっ
ズンッ
ズンッ
いいっ
あふぁぁんっ


おうおう
いい声で鳴くねぇ
声っ 我慢したいのっ
したいのに 出来ないっ
気持ちよすぎて あぁぁうっ
自制なんて出来ないのっ
あっ あっ あぁぁっ
頭バカになりゅっ
そりゃ最高だっ
自由にヨガりなさい
ジュポッ
ジュポッ
もう あぁぁっ
おま○こする事しか
考えられなくなりそうぅぅ
あっ あっ あっ
いくっ あぁぁっ
私 あふっ
イク イクっ


瑛太さんの前で
瑛太さんのお父さんの
お○ちんで
可愛いねぇ
遠慮なくイキなさい
ズッ
ズッ
ありがとうございますっ
美里ぉ イきますぅぅぅっ
あっあっあっ
私っ あぁあっ
イっちゃうぅぅぅぅぅっ

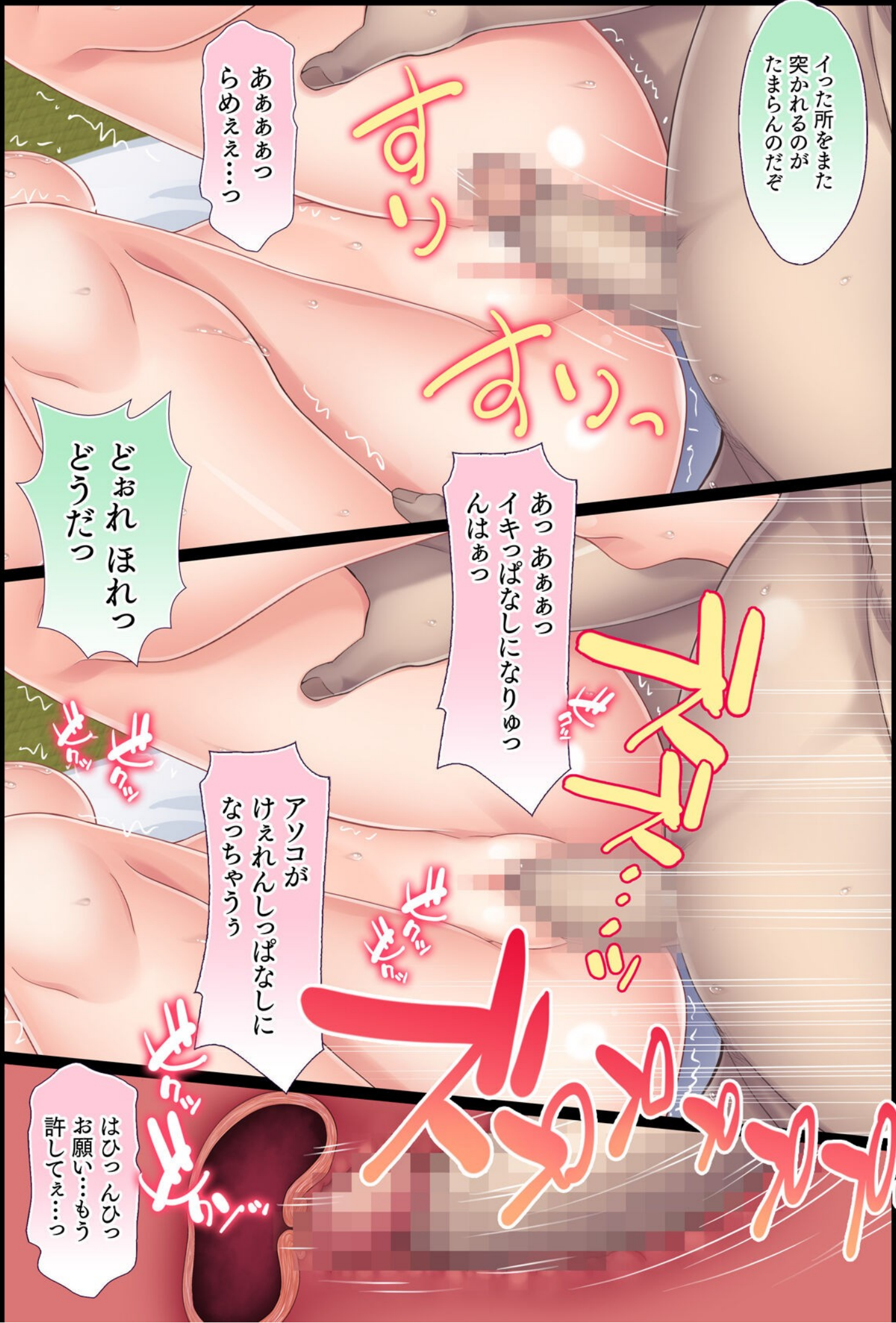






上手にイケたじゃないか
じゃあ今度はこうして…

グイッ…


イった所をまた突かれるのがたまらんのだぞ
すっ
すっ
あぁあぁあっらめえぇ…っ
どぉれ ほれっどうだっ
あっ あぁあっイキっぱなしになりゅっんはぁっ
アソコがけぇれんしっぱなしになっちゃうぅ
はひっんひっお願い…もう許してぇ…っ


許す？
私は美里さんを
いじめてなんて
いないぞ？
あっあぁっ
でも…でもぉぉ…っ
ほら見てみなさい
美里さんの体は こんなにも
喜んでるじゃないか
んふぅぅ…
だってぇ…あぁあっ
あふぁっぁんっ
ほうら今どうなっているか
言葉に出して言ってみなさい
そんな事…
あぁあっ
自分の体が
どうなっているか
言ってしまえば
些細な事など
吹っ切れるぞ ほら


ズッ
ズンズンズンズン
う…うぅ…
お義父さんのが…
挿入ってますぅぅ
何がどこに？
もっとちゃんと
言いなさい
んふぁぁっ
お義父さんのおち○ちんがぁ
私のおま○こに挿入ってますぅぅ
お義父さんのぉ極太おち○ちんがぁ
ズンズンきちゃってるのぉおっ
みちっ♥
みち
みちっ♥
じゅぼ
じゅぼ
じゅぼ
じゅぼ
じゅぼ
じゅぼん
じゅぼん


その調子だ
美里さんはすぐに
我慢しようとする
癖があるからなぁ
これからはどんどん口に出して
心も体も素直になりなさい
んふぁあっ
はいいい
よしよし いい子だ
ご褒美にまたイかせて
やるからな
あふっ んふぁぁぁぁっ
いいっ あぁぁっ
お義父さんのおち○ちん好きっ
大好きなおち○ちん欲しくてぇ
おま○こ濡れまくっちゃうのっ
太くて硬くて長いのに
ズポズポされて おま○こ
広げられちゃってりゅっ


グチョグチョって
ヌポヌポォって
やらしい音止まらにゃいっ
ジュポッ
ズンズン
ははは
嬉しいことを言ってくれるねぇ
たくさんパンパンしてやるぞっ
あふぁぁあっ
しぇっくすでこんなに
気持ちいいの初めてぇぇぇ
おち○ちん深い所にくりゅのぉ
あぁぁあああぁぁあぁあっ
イクぅぅ またイクぅぅぅ
おま○こパクパク
してきちゃってりゅっ
イクイクっ
あぁっ お肉とお肉がぁ
叩きつけられてぇ パンッパンッて
音がする度にぃ


そろそろ
出るぞっ
えっらめっ
らめらめぇ
ダメなのっ
本当はダメなのにっ
でも欲しいのっ
このまま出して
欲しいのぉぉっ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
あなたぁ…
ごめんなさいっ
私…私いい…っ
お義父さんの
おち○ちんの
精子欲しいのぉ
よしっ
出すぞっ


あっふぁぁぁぁぁっ
ドクドクきて…る…
熱いの…注がれてる…
おま○こがぁ…
しゅうしゅくしながらぁ
お義父さんせぇし
飲み込んでりゅぅ

あふぁぁ…んっ あぁぁ…
瑛太さん…ごめんなさいぃ…

はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ

私…あひっ んっ
あなたのお父さんの
女になっちゃったぁ…



うぅっ
あったま痛ぇ…
完全に二日酔いだコレ…

あなたったら…
はい お水

サンキュ
あぁ…ダメだな…
少し横になるよ

大丈夫？

ああ
俺の事は気にせずに
過ごしてくれていいよ

分かったわ…

じゃあ せっかくだし
もう一度お風呂頂こうかしら

あなた行ってきますね

おう…
あぁ…イテテ…


ふうっ
やあ美里さん
お お義父さんっ どうしてここに…
美里さんが露天に向かうのが見えたからね 追いかけてきたんだよ
そう…ですか…
どれ また特別なマッサージしてやろう
け…結構です……


おやおや本当かい？
昨日はあんなに
ヨガってたのに
そ それは…
今さら清純ぶっても
私のチ○ポでアクメした
その事実は変わらんぞ
っそんな…
口で否定しても
身体は私のチ○ポを
期待してるんだろう？
あ…あぁ…
そう…私の身体は
昨夜の快感を…
お義父さんの
お○ちんを求めてる
さあタオルを取って
こっちに来なさい
……は…い……
気持ちよくしてあげるから
抗えない…
フヤサッ


ほら
私のはどうだ？
ギン
そう 美里さんを
たまらなくする
最高のチ○ポだろう
ふふふふ
明るい所で見る美里さんの
体もたまらんねぇ
大きい…です
とっても太くて
…硬くて…
ギン
はい……
あなた
ごめんなさい…
でも私…お義父さんの…
お義父さんの
おち○ちんの方が…
最高に気持ちよく
なれちゃうの…


いきなり 挿入って…っ
ん んはぁぁぁあっ
大した前戯も
しとらんのにココは
ドロドロじゃないか
お義父さんのお○ちん…
見てるだけで…っ
奥からどんどん溢れてきてっ
ズンッ
おま○こが…
お○ちん欲しい欲しいって
ヨダレを垂らしちゃってたのぉ
嬉しいことを
言ってくれるねぇ
それじゃあ美里さんの
マ○コを私のチ○ポの形に
作り替えてあげよう
ズンッ
瑛太とのセックスじゃあ
満足出来ん体になるだろうが
別にいいだろう
そんな事されたら…っ
ダメェ…そんな事…っ
私はぁ…瑛太さんの
妻なのぉぉっ


美里さんも
義理堅いなぁ
よしっ 私のチ○ポの事しか
考えられないくらい
突きまくってやろう
あぁっ そんなっ
急に一番…深いところにっ
こうして擦り上げると
クリにも当たっていいだろう？
クリュ
あぁっ ダメっ
膣内だけじゃなくて
クリまで刺激されたらぁっ
クリュッ
ズンッ
すぐにヨくなっちゃうっ
あっ あひっ あひぃんっ
あっ あぁぁあっ
クリ いいっ クリ好きぃっ
もっと刺激してぇぇんっ
美里さんは
快楽に弱いなぁ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
よわ…いのっ
気持ちいいのに
弱いのぉっ


こんな外でぇっ 誰かにぃ
見られるかもしれないのにっ
大好きな
瑛太さんのぉ
お父さんの
おち○ちんなのにぃ
あっ あっ それでもぉ
ぶっといおち○ちんっ
欲しいの止められないのっ
ひひひっ
うちの嫁は淫乱だねぇ
私…こんなにも
スケベだったなんて
知らなかったのぉ
おち○ちんでゴツゴツ突かれるたびに
貞操観念とかぁ そういうの
どうでもよくなっちゃうのぉぉ
もっとっ……
もっとおま○こ
ズポズポしてぇぇぇっ
欲張りだねぇ
そんなにマ○コ
ほじって欲しいのか？
掘ってぇ 掘ってぇっ
美里のおま○こ
ゴツゴツ掘ってぇっ


おらっ
これでどうだっ
ジュボッ
ジュボッ
ジュボッ
ジュボッ
あぁぁぁぁっ いいっ
んっ んはぁぁぁぁぁ
おま○ことろけるっ
昨日もこれぇ良かったのぉ
お義父さんの高速ピストン
しゅきっ しゅきぃぃぃっ❤
ぜグッ
ぜグッ
ぜグッ
ぜグッ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
あぁあぁぁっ
えぐられりゅっ
おま○こえぐられ
りゅうぅっ
イクのか？
ん？
イクのか？
ひゃいっ イキましゅっ❤
美里おま○こもうイキましゅっ
ぜグッ
グチョグチョおま○こ
ズポズポされて
イクぅぅっ❤

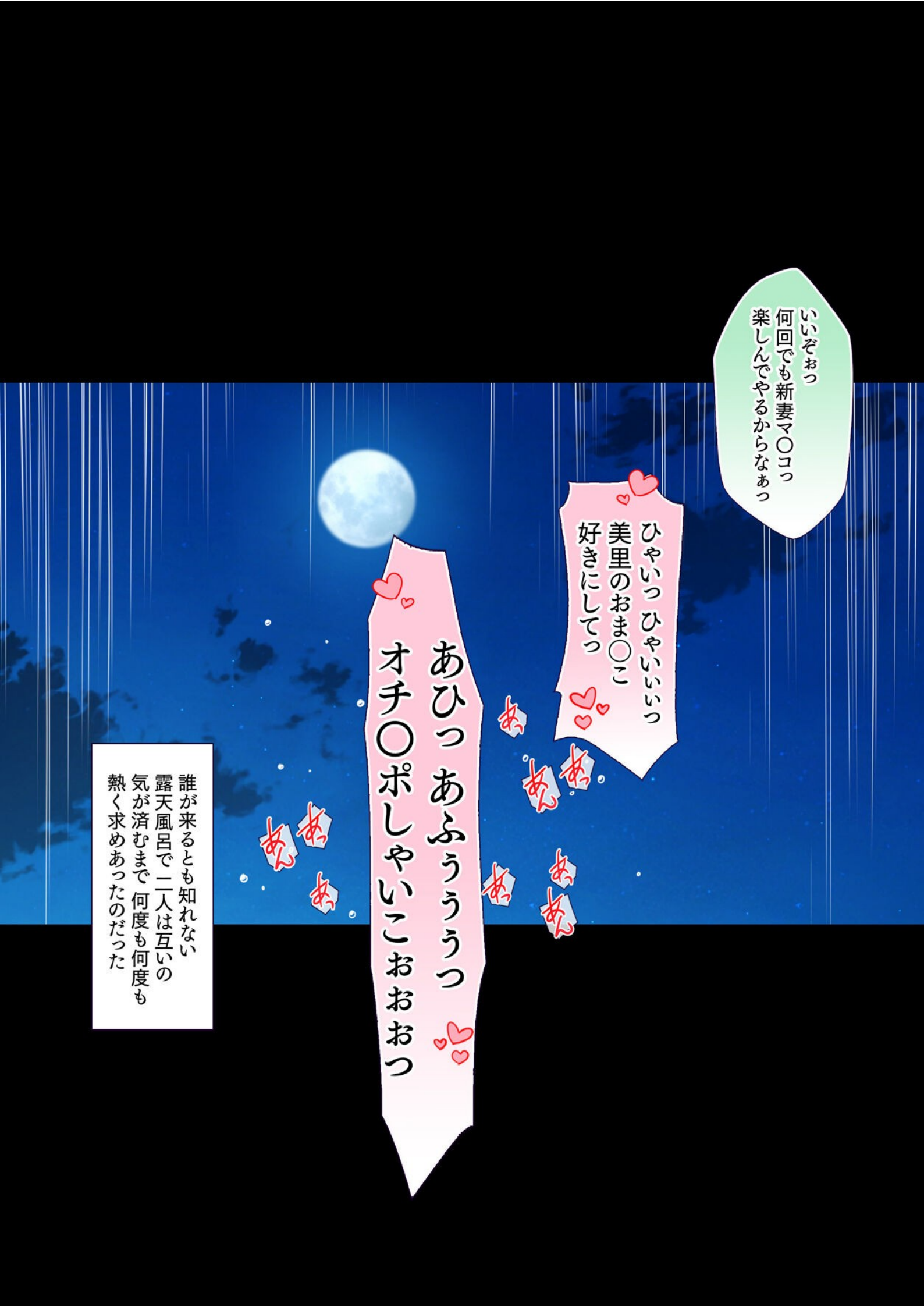

膣内に出すぞっ
ぶるぶる
くぅうっ
凄い締め付けだっ
こりゃたまらんっ
ぶるぶる
あぁあぁあっ
膣内ぁ…膣内にきてる…
んっはぁあぁあ❤
いっぱい…いっぱい来てるの
あぁあ…あふっ
いっぱい来てるのに…
おま○この膣内のおち○ちん
まだ硬ぁい…あふぅっ
まだまだ萎えんぞぉっ
ほうれっ
ビュルルルル
ビュルルルル
ビュルルルル
あっ
あん
あっ
あん
あっ
あん


ああぁぁっ
イってるのっ イってるのにいいい
おま○こキてりゅうううっ
イってる時に突かれるのが
たまらんのだろうっ
んひっ んほっ
んほぉおおおおおぉぉっ
子宮にゴツゴツきてりゅうっ
あっ あひっ
全身がぁ 気持ちよくてぇ
おかしくなるうううっ
きゃっふうううんっ
イキっぱなしになりゅっ
ああっ イクっ
またイクっ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
ぎゅ
ぎゅ
ぎゅ
ぎゅ
イクッ


うぅっ 精子が
搾り取られるぞっ
キュッ
キュン
せぇし期待してぇ
おま○こ締め付け
ちゃうのぉおっ
また
出すぞっ
きてっ きてぇぇぇぇっ
あっついせぇし奥に出してぇぇっ
あっ あひっ
また来たぁ…っ
また中出しされちゃったぁ…
ズクンッ
ズクンッ
また中出しされて
精子溢れちゃってるぅ
美里さんのマ○コは名器だねぇ
これなら何発でも出せるぞ
あぁあっ お義父さんの…
お義父さんのおち○ちんも
とっても素敵ですぅぅっ
何度でも復活する
逞しいおち○ちんで…っ
美里のおま○こもっと虐めてぇぇ


可愛い嫁に頼まれたら
嫌とはいえんなぁっ
ほれっ どうだっ
ああぁぁぁあっ
おち○ちん凄いのぉぉっ
おま○こ気持ちいいっ
美里さんの
マ○コは最高だっ
嬉しいいっ
嬉しいのぉ 淫乱おま○こぉ
気に入って貰えてぇ
あっあっ あぁぁぁあっ
田中家にお嫁に来てっ
良かったぁぁぁんっ
イキ狂うまでっ
おま○こ突いて下しゃいいっ
ははははっ
よぉし まだまだ可愛がって
やるからなぁっ


私のチ〇ポは
たまらんだろうっ
チ〇ポいいだろうっ
ほら チ〇ポいいって
言ってみなさいっ
さぁっ
あひっ ひっ チン…あふっ
オチ〇ポぉっ オチ〇ポいいっ
いいでしゅうううっ
おち〇ちん何て上品ぶった言葉より
チ〇ポの方がドスケベな
美里さんには よく似合ってるぞっ
あうううっ オチ〇ポぉおおおっ
オチ〇ポしゅきっ しゅきぃいいっ
ドスケベ美里はぁ
義父さんの
オチ〇ポでぇ
しあわしぇアクメ
キめちゃいましゅううっっ
あひっ
お
あ
あ
あ
あ
あ
ひぃん


いいぞぉっ
何回でも新妻マ〇コっ
楽しんでやるからなぁっ
ひゃいっ ひゃいいいっ
美里のおま〇こ
好きにしてっ
あひっ あふううううっ
オチ〇ポしゃいこおおおおっ
誰が来るとも知れない
露天風呂で二人は互いの
気が済むまで 何度も何度も
熱く求めあったのだった


温泉旅行から数日後――
あなた
行ってらっしゃぁい
おうっ
温泉効果で元気も出たし
仕事頑張ってくるよっ
じゃあ
行ってきますっ


美里が瑛太を見送るとリビングの扉が静かに開いた
ガチャ
瑛太も元気になったなぁ
ところでこっちの息子も元気なんだが……
お義父さんのモノもうあんなにも大きくなって……
あの温泉旅行以来お義父さんは毎日私の体を求めてくる
ボルッ
ほら 大好きなお義父さんのチ○ポだぞ欲しくなってきただろう
そんな…こと…
そして私も…お義父さんの誘いを拒めないでいる…


あ…あぁ…
こんな事はもう…
あ
あん
あっ
そう言いながら ほれ
マ○コはもうビショビショ
じゃないか
いや…
言わないで…
言わないでぇ…っ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
じゃあ やめていいのか?
今日のチ○ポはお終いで
いいのか? ん?
ほらっ……
どうして欲しい
んだい?
…オチ○ポ…欲しい
もっと…気持ちよく
なりたい……
ヒタッ
お義父さんの……
オチ○ポで おま○こ…
…掻き回して欲しい
あぁだめ……
お義父さんとのセックスが
一番感じる体になっちゃったのぉっ


よぉしよし それでいいんだ
望み通りマ〇コ擦ってあげようねぇ
あっ あぁぁっ
お義父さんのカリが
おま〇この入り口に
ひっかかってぇ……
あ
あん
ぐぷっ
ぶぴっ
その度にっ
おま〇こ広げられてぇっ
あぁっ んふぅうううっ
おま〇こ鳴いちゃうっ
広げられたおま〇こから
空気い入っちゃうぅうっ
ぶぴぶぴぃって
恥ずかしい音っ
いっぱい漏れちゃうぅっ


美里さんっ
メス豚じみてきたねぇっ
あっ
あん
恥ずかしいんほぉぉっ
でもぉ でも私ぃっ
田中美里はぁっ
おま○こ大好きメス豚ぁ…っ
メス豚主婦の美里でしゅぅぅっ
メス豚だからぁ
人間のぉ 倫理観とかぁ
どうでもよくてぇ
旦那さんのぉ お父さんのぉ
大きなオチ○ポっ 体の奥にぃ
受け入れちゃってぇ
ああぁぁっ あひぃいいっ
ヨガりまくっちゃうのによぉぉ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
じゅぶ
愛しいあなたを見送った
この廊下でぇ
お義父さんオチ○ポでイクっ
あぁあっ
イクっ イクのっ
あぁあっ


もうイクのかい
早いねぇ
私はまだイキそうにないから
遠慮なくこのまま突かせて
貰うよ
あっはぁぁぁぁん
激イキおま○こぉぉぉっ
ビクンビクンに震えてりゅっ
ドロドロに溶けたぁっ
けぇれんおま○こ突くのっ
許してえぇぇぇぇっ
じゅぶじゅぶじゅぶ
それ以上突かれたらぁっ
あふっ あひぃぃぃ
お♡
はひ♡
あひぃぃぃ♡
あ♡
はひぃ♡
はひ♡
ひぃ♡
連続アクメくりゅうううう
はぁ♡


うぉぉっ 締まってきたっ
締まってきたぞぉっ
あひぃっ はひぃぃぃっ
りゃめっ りゃめっ
イキくりゅうぅっ
せぇえき欲しくてっ
子宮おりてくりゅっ
あぁぁっ あふぅぅぅんっ
おま○こきゅっきゅうにゃのぉっ
オチ○ポしゅきっ
お義父さんのオチ○ポ大しゅきぃっ
おま○この肉がぁ
しゅうしゅくしてぇ
オチ○ポ絞りすりゅのっ
オチ○ポ絞りで
ミルクちょうらぁいっ
あひぃぃっ 締め付けおま○こで
オチ○ポ喜んでぇえぇえっ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
キュ
キュ
キュウ
キュウ


いい嫁をもって幸せだなぁっ
ははははっ
あっはぁぁぁぁんっ
お義父さんのしゅてきオチ〇ポぉっ
一生…あふぅぅんっ
一生ぉ美里にお世話しゃしぇて
くだしゃいいいいいっ
いいっ いいぞぉっ
ほれっ ケツ穴に力を込めて
もっとマ〇コ締めてみぃっ
ひゃいいいいっ
締めましゅっ
お尻もおま〇こもぉっ
もっともっと
締めちゃいましゅうぅっ
くぅっ
こいつはたまらんっ
締め付けおま〇こ
いいですかっ
あひぃいいっ


いいぞっ 美里さんの
マ○コを味わったら
他では射精出来んなっ
嬉しっ 嬉しいでしゅうぅっ
いつでもぉ 美里おま○こ
使って下しゃいいっ
くぅっ イクっ
美里さん 出すぞっ
きちぇえっアクメおま○こにっ
濃厚ザーメンきちぇえええええっ
ビュルルルル


中出しおま○こぉ
ドロドロぉ…
ぶびゅっ
ぶりゅりゅうう
でるるる
おま○この中ぁ
タプタプに満たしゃれて…っ
しぇいし溢れちゃってりゅうう
あっ
なっ
なんにゅうう
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
あぁっ私ぃ
お義父さんオチ○ポに
犯されてぇハメられてぇ
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
快楽まみれでぇ
幸しぇでしゅうう
ひくひくっ
ひくひくっ


それから数ヶ月――
あなた
行ってらっしゃあい
おうっ
生まれてくる子の為にも
仕事頑張ってくるなっ


私は…きっと
あなたの子だと…
そう信じてる…
でも……
中出しされた回数は
お義父さんの方が
はるかに多い…
おぅい美里さぁん
早くこっちに来なさい
ギン
ギン

そして今日も…
私はお義父さんに注がれる…